

会告 京奈和自動車道の平城宮跡地下通過計画問題の現状と木簡

学会としての取り組み、及び第二回「高速道路計画で危機
を迎えた世界遺産平城宮跡を考える」シンポジウムの開催
について

木簡学会では、平城宮跡の地下に京奈和高速自動車道のトンネルが計画されている問題について、遺跡や遺物、特に木簡に対する決定的なダメージが憂慮されるため、他学会・団体と協力しながら、その白紙撤回を訴えてきた。平城宮・京跡の地下に多くの木簡が埋もれおり、それらが歴史の証人として多くの新しい事実を語ってくれることは、周知の事実である。木簡は地下水に水分を補給され當時湿潤な状態に置かれてきたため、今日まで辛うじて残ってきた。ところが、現在計画されているような京奈和道高速自動車道の地下トンネルが平城宮跡やその周辺の地下に掘られると、その地下水脈を破壊しかねず、木簡にとって致命的な結果をもたらす危険性がある。一二〇〇年の間地下に保存されてきた貴重な歴史資料を私たちの時代で破壊するようなことがあれば、それは歴史に対する冒瀆に他ならない。そもそも平城宮跡は特別史跡であり、世界的にもユネスコの世界遺産に登録された貴重な文化遺産である。そこに高速道路を通そうという発想自体が許さ

るべきものではない。

こうした私たちの主張とは裏腹に情勢は刻々と変化している。

二〇〇一年七月、国土交通省では地下水検討委員会（委員長・大西有三京都大学大学院教授）を発足させ、四回にわたる委員会での分析・検討を経て、二〇〇二年三月、平城宮跡の地下にトンネルを掘つても地下水への影響は小さいとする報告をまとめた。

これを受け、二〇〇二年三月、国土交通省は文化財検討委員会を設置した（委員長 笹山晴生学習院大学教授）。同委員会では、四回の討議を経て、二〇〇二年七月一五日、遺跡に大きな影響を与えてトンネルを建設することは技術的には可能だが、世界遺産としての意義を考え国際的・社会的な関心への配慮が必要として、道路建設は特別史跡の指定範囲を避けるべしとの提言を公表した。さらにその後、広く一般の意見を集めるとして、二〇〇二年九月、国土交通省はP-I方式による委員会「大和北道路有識者委員会」（委員長 斎藤峻彦近畿大学教授）を発足させるに至っている。事態はなお予断を許さず、今後さらに運動を大きなものにしていく必要がある（これまでの学会としての取り組みについては、彙報を参照）。

ところで、こうした状況のもと、昨年実施した「高速道路計画で危機を迎えた世界遺産平城宮跡を考える」シンポジウムに結集したこの計画に反対する多くの学会・団体・市民の声をさらに大

きなものにすべく、シンポジウム終了後も実行委員会をさらに継続し、第二回のシンポジウムを開催することになった。木簡学会では第一回に引き続き、主催団体としてシンポジウム実行委員会に加わり、日本考古学協会、高速道路から世界遺産・平城京を守る会とともに幹事団体として事務局の一翼を担つた。同シンポジウムは次のような日程・内容で開催された。

〔日時〕 二〇〇一年一月一七日（日）

〔場所〕 明治大学大学会館八階大会議室

〔内容〕

開会挨拶 小林 三郎氏（日本考古学協会）

挨拶 永井路子氏（作家）「平城京跡に思うこと」

第一部 講演

町田章氏（奈良文化財研究所所長）「東アジアの古代都城史からみた平城宮」

第二部 報告

吉村武彦氏（明治大学）「古代の政事（まつりごと）と平城京」

佐藤信氏（東京大学）「平城宮・京の木簡と日本列島の古代」

清水重敦氏（奈良文化財研究所職員組合）「世界遺産と都市開発」

小井修一氏（高速道路から世界遺産・平城京を守る会）「地下水

検討委員会報告批判——手のこんだ委員会まかせの道路政策」
第三部 パネル・ディスカッション
「世界遺産・平城宮（京）跡の保全と活用をめぐって」
パネラー 吉村武彦氏、清水重敦氏、小井修一氏、
吉川聰氏（奈良文化財研究所職員組合）

コーディネーター 佐藤信氏

主催 シンポジウム「世界遺産平城宮跡を考える」実行委員会（代表 小林三郎（日本考古学協会））

参加団体 大阪歴史学会 関西文化財保存協議会 京都民科

歴史部会 考古学研究会 *高速道路から世界遺産・平城京を守る会 古代交通研究会 古都奈良の歴史的遺産と景観を守る市民共同フォーラム 史学会 難波宮址を守る会

奈良県文化財保存対策連絡会 奈良県歴史教育者協議会 奈良世界遺産市民ネットワーク 奈良文化財研究所職員組合 奈良歴史研究会 *日本考古学協会 NPO東アジアの古代文化を考える会 文化財保存全国協議会 *木簡学会 歴史科学協議会 歴史学研究会 歴史教育者協議会

（以上、二十四団体。*は幹事団体）